

教育センター通信

ほ どの 火床の火の心を紡ぐ

第11号（通算第50号）
平成30年3月19日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行

6年生を送る会
3月1日 井栗小学校



全職員で学級づくりの基本を共有して、よいスタートを！

小中一貫教育推進課 指導主事 田村和弘

あと半月で新年度がスタートします。子どもたちは新しい出会いに期待し、新しい自分づくりに意欲をもっている時期です。期待と意欲で「ワクワク」していると同時に「自分の居場所はあるのか」という不安で「ドキドキ」しています。年度初めは子どもにとって「居場所探し」の時期となります。

そんなときに起こりやすいのが「不安のペアリング」です。クラス替えがあったところは特に顕著になります。不安のペアリングとは、「居場所がないという不安」を解消するため、とりあえず気の合いそうな人と二者関係を築こうとします。実はこの二者関係ががっちりしてしまうと、その後の学級経営がうまくいかなくなります。学級全体で行う学習や行事で話し合いや活動がギクシャクしたり、時には二者関係グループ同士が対立したりします。6年間単学級の学校では、いくつかの二者関係グループの間に階層ができています。

では、二者関係を緩やかにして、人間関係を広げるにはどうしたらよいのでしょうか。年度初めは人間関係づくりの機会を意図的に増やしましょう。例えばエンカウンターの「質問ジャンケン（勝った人が質問する）」を行い、様々な人と関わらせ質問に答えるという自己開示をとおして、人間関係を広げます。そのとき大切なことは質問の答えを否定しないというルールを徹底させることです。

学級づくりの基本は「人間関係」と「ルール」です。人間関係を広げ、そして深めるには学活や行事だけでは不十分です。授業において「学び合い」と「よさを認め合う」場を設定すること。授業中も「人の気持ちを傷つける発言をしない」などのルールを徹底することが大切です。全職員が学級づくりの基本を共有して、1年のよいスタートを切ってほしいです。

平成29年度「教職員研修、講座」を振り返って

教育センター実施5年目の「教職員研修、講座」も、皆様のご理解・ご協力のおかげですべて終了しました。今号では、数値的な面から「教職員研修、講座」を振り返りました。

I 基礎研修

研修・講座名	講座数	実施月	受講者数	評価
小中一貫教育基礎研修会	1	4月	166	*

II 実践研修

1 小中一貫教育を通して学力を向上させる研修

研修・講座名	講座数	実施月	受講者数	評価
新学習指導要領対応研修	1	6月	44	100
全国学力・学習状況調査を活用した授業改善研修	1	11月	21	100
教科カリキュラムの活用、授業づくり講座・演習	4	6、8月	11	100
外国語活動・英語教育研修会	1	4月	29	100
外国語活動・英語小中合同研修	1	12月	21	100
小学校教員から学ぶ研修講座	1	9月	6	100
中学校教員から学ぶ研修講座	1	10月	7	100

2 小中一貫教育を通して人間関係を豊かにする研修

研修・講座名	講座数	実施月	受講者数	評価
不登校児童生徒対応力向上研修	2	6、11月	57	100
道徳教育指導者研修	1	9月	48	100
ハイパーQ活用研修会 ※1回目は基礎研修	3	6、7、9月	258	100
多様性を尊重する学級経営研修	1	12月	66	100
子どもへの支援力向上を図るカウンセリング研修	1	12月	47	100

3 小中一貫教育の視点を生かした各種教育研修

研修・講座名	講座数	実施月	受講者数	評価
デジタル教科書活用研修会	2	5月	14	100
プログラミング教育研修会	1	1月	27	100
環境教育研修会	1	5月	9	100
個別の指導計画の作成と活用研修	1	5月	29	100
特別な教育課程に基づく授業づくり研修	1	6月	24	100
合理的配慮研修会（インクルーシブ教育システム研修会）	1	7月	17	100
特別支援教育指導員研修会（三南特支協主催）	1	7月	107	*
特別支援教育講演会（発達応援セミナー）	1	7月	215	*
子どもの支援力養成研修	1	8月	43	100
読み書き困難のある子どもへの学習支援	1	9月	43	100
WISC-IV技能研修	2	10月	15	100
通常学級における特別な配慮に基づく授業づくり研修会	1	11月	17	100

III 充実発展研修

研修・講座名	講座数	実施月	受講者数	評価
小中一貫教育マネジメント研修	2	6、9月	61	100

IV その他

研修・講座名	講座数	実施月	受講者数	評価
メンタルヘルス研修	1	6月	19	100

全体（講座数と受講者数は合計、評価は平均）	36	4～12月	1,421	100
-----------------------	----	-------	-------	-----

※ 評価…受講者アンケートによる4段階評定（A、B、C、D）の「A」と「B」の合計。（%）

A：役に立った

B：どちらかといえば役に立った

C：どちらかといえば役に立たなかった

D：役に立たなかった

*…アンケートを実施せず

コミュニティ・スクール モデル校の取組から②

前号に引き続き、コミュニティ・スクールの「1年間の取組の流れ」をお示しします。今回は、CSディレクターの役割、「熟議」から「協働」につなげるまでの取組、1年間のまとめについて掲載します。

CSディレクター (事務局員)の役割

CSディレクターは、保護者や地域代表の方の主体性をより高めるために学校職員ではない方から担っていただきます。

以下の役割を担うために、都合のつく日時に学校に足を運んだり、学校の担当職員と連絡を取り合ったりします。

- 学校運営協議会の会議運営（開催案内の作成、会議資料の印刷等）や学校運営協議会委員との連絡・調整など、学校運営協議会の事務局としての役割
 - 学校ボランティアの募集・調整など、地域住民や関係機関との総合窓口としての役割
- ※この他にも、学校や地域のためになることを、提案・実行していただきます。



1年目から上記の役割をすべて担っていただくことは難しいかもしれませんが、学校担当者と相談しながら、徐々に担っていただく役割を増やしていくとよいと思います。

「熟議」から「協働」へ

年間3回程度の会議を開催し、子どもの育成について「熟議」「協働」します。その中核となる組織が学校運営協議会です。

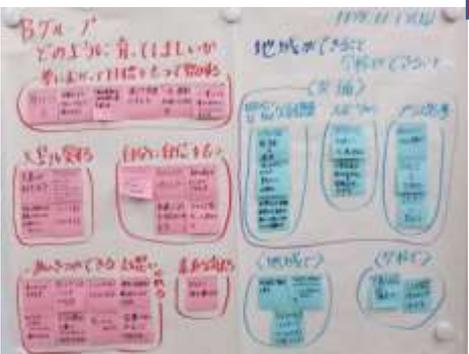
「熟議」によって学校・家庭・地域が目標を共有したり、それぞれの立場でできる取組、一緒にできる取組について考えたりします。「熟議」したことを、具体的な取組「協働」につなげます。

「熟議」した取組は、すべてすぐに実行できるとは限りません。できることから取り組むことが大切です。1年目に「熟議」したことを、次年度の「協働」につなげることもあります。

熟議



和やかな雰囲気の中で「全員参加」を促す「ワークショップ形式」での「熟議」が効果的です。



協働



学校運営協議会の委員が、関係団体や地域住民・保護者に働きかけ「協働」の輪を広げます。



1年間のまとめの学校運営協議会

- ◇ 1年間の取組や学校評価などから、子どもの育成についての成果と課題、次年度の活動の方向について話し合い、共有します。
- ◇ 校長は次年度の学校運営の基本方針を示し、委員から承認をもらいます。



「何かしなければならぬ」と活動自体が目的になると形骸化してしまうことがあります。

現在の学校評議員制度から学校運営協議会へ移行すると考え、ある程度の期間をかけて取組を定着・発展させていくことが大切です。

お疲れ様でした！ 授業力向上実践研修 30名の修了者

昨年度に引き続き、研修テーマ(Step1：子どもの目が輝く授業づくり Step2：学習意欲の向上や学力向上を目指した授業改善)を設定して取り組んだ今年度の「授業力向上実践研修」でした。5月10日の「ガイダンス」を皮切りに4回の学習会と研究授業等を経て、Step1受講者は「授業づくり実践記録」を、Step2受講者は「教育研究論文」を執筆し、今年度の研修が修了しました。受講生の皆さんは、実践研修をとおして正に日々の授業と向き合う中で指導力向上に磨きを掛け、それぞれに掲げた「授業にかける願い」が実現されたことと思います。(以下は、「研修のまとめアンケート」からの一部引用、集約です。)

◇：Step1 受講者(教職2～5年目)

◆：Step2 受講者(教職7～10年目)



- ①「1年間にわたる長い研修」
- ②「自分で計画的に進める研修」
- ③「一人一人に担当指導主事が付く研修」

◇1つの授業を行うだけでなく、単元を通して研究に取り組めたことはとても勉強になった。単元を通して子どもをイメージして手立てを考え、1時間1時間子どもの姿を意識して授業に取り組むことで、子どものノート記述や授業に取り組む態度も違っていた。

◇単元をつくることに難しさを感じている。レディネスを基にした単元づくり、思考の流れに沿った単元づくり。今後の大きな課題だ。

◆積極的に意見を発表する子どもの姿を目指した。学級の雰囲気づくりについて、聞いている子どものリアクションを褒める教師のリアクション「あいうえお」などすぐに実践することができた。また、達成感をもたせる手立てとして振り返り活動の重要性を教えていただいた。

◆一人一人に担当の指導主事がついて、授業のことだけでなく学級経営のことやソーシャルスキルトレーニングのことも指導いただき、とても充実した研修だった。

◇学級づくりを通じた関わり合う生徒の育成が、授業においても話し合いや学び合いを通じて考えを深める生徒の学習活動をつくり出すということに実感をもてた。

◆子どもの姿から授業を反省し、次時までに手立てを考えて挑むという一連のサイクルが身に付いた。実践記録としてまとめることで、考えを他者に伝える難しさ、分かりやすくまとめる難しさも痛感した。しかし、研修を受けたことで確実に力がついたと思う。

◇論立てと検証とのつながりの難しさを経験できた。論が曖昧になると、検証が難しくなったり、いろいろなことが後付けになってしまったりすることが分かった。明確なビジョンをもち、そのビジョンに向かって突き進める研究・研修を行いたいという意欲が高まった。

◆1回の公開授業実施ではなく、数回の公開授業実施であると、一層の実践力向上に繋がると思う。

◇本来は日常から自分でよく考えて授業づくりをしなくてはと思うが、日々流れるようにすぎてしまいうように授業準備がいかないときが多くある。1単元の授業だけでなく、定期的に指導していただくと複数の単元といろいろな時期の児童の実態に応じてその都度相談することができありがたいと思う。

◆今までもっていた“社会科の授業”の展開の仕方、考え方が大きく変わった。歴史や社会的事象に対する児童の見方・考え方が改まったり、深まったりするような驚きや発見、疑問、納得のある授業をしていく必要がある。児童の反応が研修の前と後とで全く異なり、有意義な研修であった。

◆「学び合い」に対しての自分の捉え方が間違っていて、授業の進め方から生徒に対してのアプローチなど考え方を根本から見直すことができた。

◇抽出生徒の変容や成果を分析することで、授業の何を改善すべきか、どのような成果を狙うのかはつきりさせて取り組むことができた。◇仮説を客観的に明らかにするためのデータが不足していた。授業をきちんと録音する、学級全体が変容したことを示す数値をとる等、反省点が多い。

◆教材研究の中で一番困ったところは、いかに児童に内在化された問いを児童の言葉で表出させるか、そして、そのために本時の学習問題(◎)をどのようなものにするかというところだった。

◆教材を何度も練り直し、計画通り授業が進まずどう工夫していこうかとても悩んだ。本番を迎えるまでの道のりが苦しかったが、子どもたちが頑張った分応えてくれて嬉しく思い、達成感が大きかった。生徒指導にとっても悩まされたが、何とか乗り越えて向き合っている。

